

## カキ「太秋」の袋掛けによる汚損果防止技術

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部  
担当者：谷口 政弘

### 研究のねらい

カキ「太秋」は9月上旬頃から果皮表面にひびが入り、収穫前に条紋が発生しやすくなる。そこが雨や露等でぬれた状態が長く続くようになると、黒い部分（汚損）が拡大して商品価値が低下する。  
そのため、袋掛けによる果実汚損の防止技術を開発する。

### 研究の成果

袋掛けをすることにより、汚損果がほとんど発生しない。

ポリ袋と白色撥水紙袋（以下：撥水紙袋）を比較すると、撥水紙袋の方がポリ袋区より優れている。よって、撥水紙袋のような材質で、太秋に合った大きさの袋を選定する必要がある。

袋掛けの時期としては、条紋が入る前の9月までが適期である。ただし、労力面を考えるならば、果実が小さい方が掛けやすい。

袋掛けの際、着果部位の葉を摘葉した方が労力がかからず、手際よく袋掛けができる。

袋掛けを行うことにより、商品化率が向上するとともに、適期収穫が可能となり、出荷量及び品質の向上が図れる

### 普及上の留意点

袋掛けを実施する前は、病害虫を袋の中に包み込まないように、防除を徹底しておく。

袋を掛けるとカラスの被害に遭いやすいので、その対策を徹底しておく。

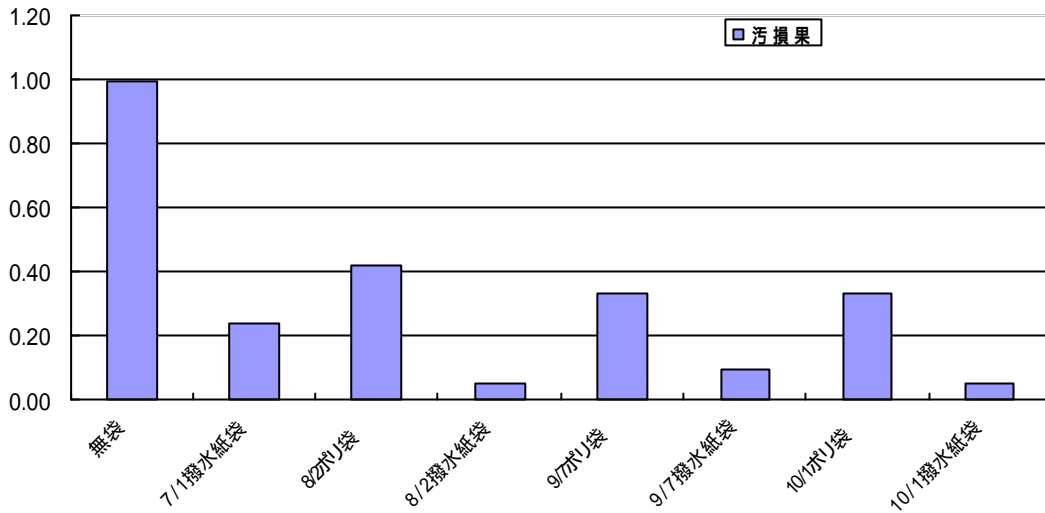


図1 袋資材及び袋掛け時期と汚損程度

注) 汚損の程度：無(0) 微(1) 軽(2) 中(3) 甚(4)

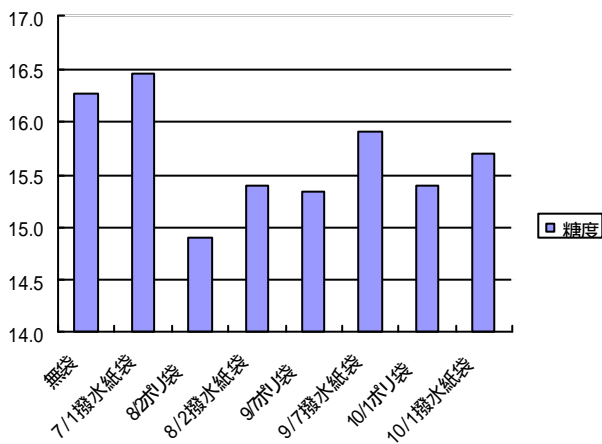


図2 袋資材及び袋掛け時期と糖度

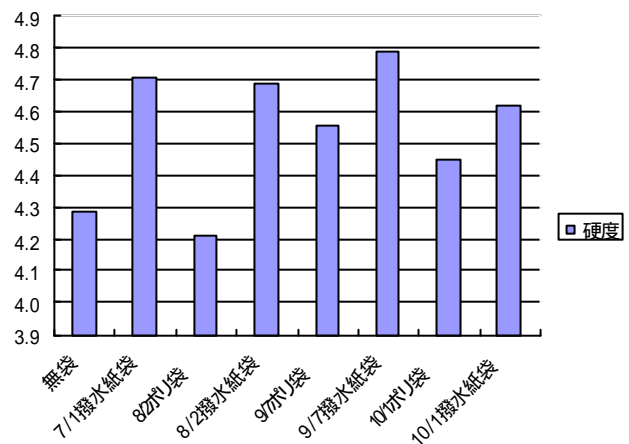


図3 袋資材及び袋掛け時期と硬度



写真1 汚損果

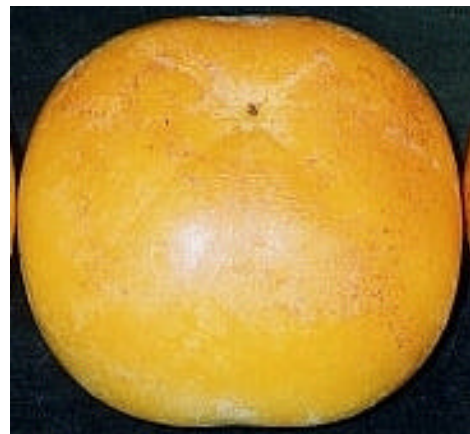


写真2 正常果